DIニュース
2023年3月1号

無断転用禁止

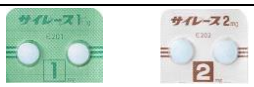
睡眠薬一覧（内服・外用）

★適応症や用法・用量など最終確認は添付文書でお願いします★

愛媛大学医学部附属病院　薬剤部　薬品情報管理室

院内外採用　院外採用　（一般名が採用となっているものは、後発品を採用中です。）

最高血中濃度到達時間、血中濃度半減期は、各添付文書・IFの記載を参考にしておりますが、年齢や体格、肝・腎機能、併用薬等により大きく変動する場合があります。また、臨床効果と必ずしも相関しないことがあります。

分類		作用型	向精神薬	一般名	商品名	先発品の製剤写真の例	最高血中濃度到達時間の目安(hr) ※は活性代謝物を示す	血中濃度半減期の目安(hr) ※は活性代謝物を示す	不眠症・睡眠障害に用いる際の用量 用法は就寝前・就寝直前（検査前の催眠の場合を除く）
ベンゾジアゼピン受容体作動薬	非ベンゾジアゼピン系	超短時間作用型	向	ゾルピデム	マイスリー		0.7～0.9	1.8～2.3	5～10mg（適宜増減） ・最大10mgまで ・高齢者は5mgから開始
			向	ゾピクロン	アモバン		0.8～1.2	3.7～3.9	7.5～10mg（適宜増減） ・最大10mgまで ・高齢者は3.75mgから開始
				エスゾピクロン	ルネスタ		0.8～1.5	4.8～5.2	1～3mg（適宜増減） ・最大3mgまで、高齢者は最大2mgまで
			向	トリアゾラム	ハルシオン		1.2	2.9	0.125～0.5mg（適宜増減） ・最大0.5mgまで、高齢者は最大0.25mgまで ・少量（0.125mg以下）から投与開始
	ベンゾジアゼピン系	短時間作用型	向	ブロチゾラム	レンドルミン		1.0～1.5	7	0.25mg（適宜増減）
				リルマザホン	リスミー		3※	10.5※	1～2mg（適宜増減） ・高齢者は最大2mgまで
			向	ロルメタゼパム	ロラメット エバミール		1～2	10	1mg～2mg（適宜増減） ・高齢者は最大2mgまで
		中時間作用型	向	エスタゾラム	ユーロジン		1.7～4.9	24～29.5	1～4mg（適宜増減）
			向	フルニトラゼパム	サイレース		0.8	21.2	0.5～2mg（適宜増減） ・高齢者は最大1mgまで
			向	ニトラゼパム	ベンザリン ネルボン		1.6	27.1	5～10mg（適宜増減）
		長時間作用型	向	クアゼパム	ドラール		3.4※, 12※	38※, 107※	20mg（適宜増減） ・最大30mgまで ・少量から投与開始
			向	フルラゼパム	ダルメート		1～8※	14.5～42※	10～30mg（適宜増減）
			向	ハロキサゾラム	ソメリン		2～8※	42～123※	5～10mg（適宜増減）
バルビツール酸系睡眠薬		短時間作用型	向	ペントバルビタール	ラボナ		1	15～48	50～100mg（適宜増減）
		中時間作用型	向	アモバルビタール	イソミタール		データなし	21	0.1～0.3g（適宜増減）
		長時間作用型	向	フェノバルビタール	フェノバール		1～2.4	94.5～131	30～200mg（適宜増減）
オレキシン受容体拮抗薬				スボレキサント	ベルソムラ				20mg（高齢者には15mg） ・CYP3A4阻害薬併用時には10mgに減量考慮
				レンボレキサント	デエビゴ				5mg（適宜増減）、最大10mgまで ・中等度肝機能障害では最大5mgまで ・CYP3A4阻害薬併用時には2.5mgに減量
メラトニン製剤・メラトニン受容体作動薬				ラメルテオン	ロゼレム				8mg
				メラトニン	メラトベル				★適応は小児のみ★ 1mg（適宜増減）、最大4mgまで
その他				トリクロホスナトリウム	トリクロリール		1※	8.2※	10～20mL（小児は適宜減量） ・0.2～0.8mL/kgを標準とし、最大20mLまで
				抱水クロラール	エスクレ注腸用キット エスクレ坐剤		0.7※	11.8※	30～50mg/kg（小児） 最大1.5gまで

参考文献：各種添付文書・IF、今日の治療薬2022（南江堂）　**睡眠薬・抗不安薬の分類は今日の治療薬分類を参考**

DIニュース
2023年3月1号

無断転用禁止

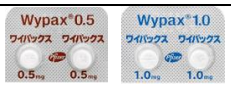
抗不安薬一覧（内服・外用）

★適応症や用法・用量など最終確認は添付文書でお願いします★

愛媛大学医学部附属病院　薬剤部　薬品情報管理室

院内外採用　院外採用　（一般名が採用となっているものは、後発品を採用中です。）

最高血中濃度到達時間、血中濃度半減期は、各添付文書・IFの記載を参考にしておりますが、年齢や体格、肝・腎機能、併用薬等により大きく変動する場合があります。また、臨床効果と必ずしも相関しないことがあります。

分類	作用型	向精神薬	一般名	商品名	先発品の製剤写真の例	最高血中濃度到達時間の目安(hr)※は活性代謝物を示す	血中濃度半減期の目安(hr)※は活性代謝物を示す	心身症などにおける不安等の症状に用いる際の用法用量
ベンゾジアゼピン受容体作動薬	短時間作用型	向	クロチアゼパム	リーゼ		0.8～0.9	5.8～6.3	15～30mgを1日3回に分けて投与
		向	エチゾラム	デパス		3.3	6.3	1.5～3mgを1日3回に分けて投与（適宜増減） ・高齢者は最大1.5mgまで ・睡眠障害に用いる際は1～3mgを就寝前に1回
			フルタゾラム	コレミナール		1	3.5	12mgを1日3回に分けて投与（適宜増減）
	中時間作用型	向	アルプラゾラム	ソラナックス コンスタン		1.8～2.1	14	1.2mgを1日3回に分けて投与（適宜増減） ・最大2.4mgまで（3～4回に分けて投与） ・高齢者は1回0.4mgの1日1～2回投与から開始し、最大1.2mgまで
		向	ロラゼパム	ワイパックス		2	12	1～3mgを1日2～3回に分けて投与（適宜増減）
		向	ブロマゼパム	レキソタン		1～1.5	20	3～15mgを1日2～3回に分けて投与（適宜増減）
	長時間作用型	向	ジアゼパム	セルシン ホリゾン		0.9～1.3	93※	(成人)1回2～5mgを1日2～4回投与 ・外来患者は原則1日15mgまで (3歳以下)1～5mgを1日1～3回に分けて投与 (4～12歳)2～10mgを1日1～3回に分けて投与
		向	フルジアゼパム	エリスパン		1	23（生物学的半減期）	0.75mgを1日3回に分けて投与（適宜増減）
		向	クロキサゾラム	セパゾン		2～4※	11～21（生物学的半減期）	3～12mgを1日3回に分けて投与（適宜増減）
		向	クロルジアゼポキシド	コントール バランス		3	11～24	(成人)20～60mgを1日2～3回に分けて投与 (小児)10～20mgを1日2～4回に分けて投与 （成人・小児ともに適宜増減）
		向	メタゼパム	レスミット		データなし	51～120※	1日10～30mgを投与（適宜増減）
			メキサゾラム	メレックス		1～2※	60～150※	1.5～3mgを1日3回に分けて投与（適宜増減） ・高齢者は最大1.5mgまで
		向	オキサゾラム	セレナール		8.2※	56※	1回10～20mgを1日3回投与（適宜増減）
		向	クロラゼプ酸	メンドン		0.5～1※	データなし	2～4カプセルを1日2～4回に分けて投与（適宜増減）
	超長時間作用型	向	ロフラゼプ酸	メイラックス		0.8※	122※	2mgを1日1～2回に分けて投与（適宜増減）
セロトニン1A部分作動薬			タンドスピロン	セディール		0.8～1.4	1.0～1.4	30mgを1日3回に分けて投与（適宜増減） ・最大60mgまで

参考文献：各種添付文書・IF、今日の治療薬2022（南江堂）

睡眠薬・抗不安薬の分類は今日の治療薬分類を参考